

第1章

活動拠点を中心とした取組

～ 地域コミュニティ・アワード出展地区の取組事例 ～

第1章 活動拠点を中心とした取組 ～地域コミュニティ・アワード出展地区の取組事例～

活動拠点を中心とした取組として、アワードに出展された 20 地区の広場の取組事例を紹介します。これらの広場での発表・展示の内容や実際の活動が、他の地域の参考となるよう、アワードを訪れた方には、展示内容を思い起こして次の活動の動機づけに、また、参加されなかった方には、20 地区の活動を紹介することにより、今後の活動のきっかけや情報交換・交流につながることを期待します。

1 地域コミュニティ・アワード2009の実施概要

- ◆ 実施日：平成 21 年 11 月 22 日(日)
- ◆ 場 所：県立嬉野台生涯教育センター(加東市)

県民交流広場の実施地域が 523 小学校区エリア、528 地区となり、県内全校区の 63%と半数を超え、地域を越えた交流の気運が高まってきた。そのため、県民交流広場を通じて培われた人と人とのつながりや活動を継承し、事業の成果を生かすとともに、全県レベルで、広場の実施地域が相互に活動のノウハウや課題を共有し、意欲を高める交流の場として、「地域コミュニティ・アワード 2009」を実施し、約 1,600 人が訪れた。

“地域コミュニティ・ルネッサンス”をキャッチフレーズに地元北播磨地域の「北はりま絆プロジェクト 交流ひろば大会」や県立嬉野台生涯教育センターをアピールする「うれしの台で学ぶ世代交流フェスタ」と共同開催した。

◇ 各県民局の広場実施地域代表によるブース展示 ◆ 時 間：10 時～ ◆ 場 所：講堂・中庭

各県民局の代表 2 地区、合計 20 地区の広場実施地域をはじめ地域コミュニティで活動している団体やグループなど 67 のブースに分かれて、広場等でのユニークな取組やモデル的な活動について、手作りのパネル展示による活動報告や活動を通じた作品の紹介、映像、実演等により披露した。

今後の広場活動に向けて、それぞれの広場が、交流し、互いに刺激をうける良い機会となった。



【屋内でのブース展示と交流風景】

◇ 広場のネットワークを図る全県連絡協議会の設立 ◆ 時 間：11 時 5 分～ ◆ 場 所：中庭

広場が全県レベルで、情報交換や交流などを図ることにより、相互に活動の成果、ノウハウや課題を共有し、広場の継続的な運営と活動の活性化を図ることを目的として、県民交流広場全県連絡協議会の設立総会が開催された。

代表世話人である小野市小野地区の西尾氏が、広場同士が地域を越えて交流することの必要性を訴えるとともに、それを実現するための全県連絡協議会の設立を宣言した。



【全県連絡協議会の設立宣言】

◇ 広場同士の交流を図る青空フォーラム

◆ 時間：13時～ ◆ 場所：中庭

県民交流広場事業の取組のノウハウや課題を共有し、意見交換する青空フォーラムを実施した。

会場で集めた意見をもとに、「人を集める」、「世代を超える」、「まずは動く」、「活動経費」の4つテーマで、パネリストの方々が所属する広場の様々な取組を発表し、参加者全員でこれからの広場活動について討議した。



【青空フォーラムと屋外のブース展示】

コーディネーター：	野崎 隆一 氏	県民生活審議会委員、ひょうご市民活動協議会代表
パネリスト	三井津 勝之 氏	稲美町天満南地区
	細見 守 氏	朝来市与布土地区
	山本 三千 氏	西宮市瓦木・深津地区
	岡田 孝久 氏	神戸市八多地区

◇ モデル的な活動をしている広場の顕彰

◆ 時間：14時15分～ ◆ 場所：講堂

出展した広場の中から、今後のモデルとなる活動や特徴的な取組を展開している5つの広場を「県民交流広場コミュニティ賞」として顕彰した。

選考は、選考委員が各展示ブースをまわり、展示内容に基づき、地域の方々と意見交換を行うとともに、一般来場者の投票結果を踏まえて選定した。受賞地域からは、「これからも引き続き頑張っていきたい」の声が聞かれるなど、今後の活動を見つめ直し、次の活動につなげていく良い機会になった。



【表彰状の贈呈】

《 県民交流広場コミュニティ賞 部門賞 》

- | | | |
|-----------|-----------------|------------------|
| ① いきいき広場賞 | ： 西脇市西脇・津方・比延地区 | 比延地区まちづくり協議会 |
| ② なるほど広場賞 | ： 南あわじ市神代地区 | くましろふれあい広場推進委員会 |
| ③ みんなで広場賞 | ： 稲美町天満南地区 | 天満南県民交流広場推進協議会 |
| ④ すくすく広場賞 | ： 新温泉町八田地区 | 八田文化交流会 |
| ⑤ しっかり広場賞 | ： 西宮市瓦木・深津地区 | 瓦木・深津県民交流広場運営委員会 |

● 拠点を活用した活用のポイント

地域交流の場となる「文化発表会」や、子供たちが参加する「ふれあいカーニバル」を企画、実施することで、地域力向上や安全安心のまちづくりを目指しています。そのためには、老人クラブや自治会、学校も含めた地域諸団体の連携を重視し、若手人材の登用にも力を入れています。

◆ 地域コミュニティの現状と課題

自治会、婦人会の活動を中心として、20 近くある各種サークルが施設を使用して、いつも満杯状態だったので、活動スペースを拡張したい。各種団体、サークル間の一層の連携強化が課題。

◆ 課題解決に向けた主な活動

各種サークル発表と交流の場となる文化発表会の開催
 児童館と連携し、子供から高齢者までが交流を図るイベントの実施
 交流活動を通じた団体間の情報共有



【ふれあいカーニバル】

「ふれあいカーニバル」の開催

児童参加型イベントとして、児童館と連携しながら、世代間交流に向けた活動として、「ふれあいカーニバル」を秋に開催。

学童保育クラブやすこやかクラブの児童などが、「ドラえもん」などの踊りを披露したり、地域の大人が子供達のために、「巨大だるまおとし」や「輪投げ」などの手作りミニゲームを企画し、住民がふれあう機会を提供しています。

「ふれあいのつどい」の開催

地域のサークル活動の発表の場として、文化発表会「ふれあいのつどい」を開催。

「阿波踊り」「播州音頭」の発表とともに、小中学生の作品展示も行われました。また、模擬店も開かれ、子供から大人までが気軽に参加できるようにしました。

ふれあいのつどいの運営には、できるだけ多くの地域の人々の協力をあおぎ、行事の開催を通じて、地域の担い手が育ってもらえるよう心がけています。



【ふれあいのつどい】

◆ アワードに参加した感想

各ブースそれぞれが、独自のアイデアで活動をアピールしておられ参考になりました。青空フォーラムを通じて、皆さんが他の地域の情報収集を望んでおられることがわかりました。

拠 点 施 設	市立桃山台地域福祉センター〔改修〕 《主な整備内容》 ○間仕切りの変更と和室の洋室化 ○文化発表会等の設営資材保管用の物置設置 ○備品の整備(机、椅子等)	
---------	---	--

連絡先 : 桃山台ふれあいのまちづくり協議会 TEL / FAX 078-752-6613

● 拠点を活用した活用のポイント

八多町では以前から文化祭での展示とともに、民踊や大正琴・太鼓などの演芸発表会を開催してきました。そのなかで、発表する舞台がほしいという声を受けて平成 21 年 9 月にふれあいセンターに県民交流広場事業で野外ステージを建設。10 月 4 日に披露会を行い、10 月 31 日・11 月 1 日の文化祭ではこけらおとしの発表会を行いました。すばらしい舞台を活用して、住民のさらなる交流を目指しています。

◆ 地域コミュニティの現状と課題

自然環境に恵まれた田園地帯で、ぬくもりのある人間関係が受け継がれており、町内行事等を通じた住民同士の交流も活発に行われている。
一方で、宅地開発に伴う新旧住民間の交流や世代間の交流促進が課題。

◆ 課題解決に向けた主な活動

民謡・大正琴等の講座や、あらゆる世代が参加し出演する住民交流のための文化発表会・文化交流会の毎月開催
誰でも自由に閲覧できる図書コーナーの拡張による読書運動の充実展開
地域行事の案内や活動の広報を行う事務局機能の充実



【野外ステージでの芸能発表】

「野外ステージ」で芸能発表会や町民文化祭を実施

完成したばかりの野外ステージなどを活用し、民謡、大正琴、キッズダンス等の芸能発表会や、絵画、書道、竹細工、手芸品等を展示した町民文化祭を開催し、地域内で交流を図っています。

この野外ステージの整備は、住民が期待を寄せてきた施設で、町民文化祭などで愛称を募り、小中学生をはじめとした 91 名の応募の中から、一番多かった「ふれあいステージ」を愛称として決定しました。名称をみんなで考えることで、愛着を持たせ、継続して活用します。

読み聞かせの開催

図書コーナーを拡張し、地域の子供たちが、放課後などの時間を利用して本とふれあえる機会を提供しています。

隣接の幼稚園児や近隣の児童を集めて、活動拠点施設の一つで、子供だけで普段利用できないふれあいセンターにある茅葺き民家を会場に、絵本の読み聞かせを月に 2～3 回実施しています。

施設の特徴を活かした読み聞かせ会となるよう、講師や役員が、工夫をこらした進行に努めています。



【絵本の読み聞かせ】

◆ アワードに参加した感想

日頃の活動を一目見てわかる視覚的な展示方法としました。いろいろな地域の方々の頑張りを見て、大いに刺激を受け、元気を頂きました。交流により、人的ネットワークができたことは大きな財産です。

拠 点 施 設	市立八多ふれあいセンター〔改修〕 《主な整備内容》 ○図書コーナーの拡張 ○ふれあいセンター前庭に常設舞台の設置 ○備品整備（パソコン、机、舞台用音響設備等）	
---------	---	--

連絡先 : 八多ふれあいのまちづくり協議会 TEL 078-982-0514

● 拠点を活用した活用のポイント

「毎日開館」が一番のこだわり。2つの小学校区が合同で運営。お盆・正月休み以外、土日も含め10時から19時まで、ボランティアスタッフが来られた人を笑顔で迎えています。地域活動の拠点として団体間の協働をスムーズにし、地域のだれもが集えるみんなの居場所「ぽっかぽかひろば」。けん玉の日、お手玉の日、ぽっかぽか寄席、コンサート、お茶会、多彩な催しで、新しい地域コミュニティを展開していきます。

◆ 地域コミュニティの現状と課題

地域住民が安心して自由に過ごせる施設がなかった。

阪神・淡路大震災後の交通量の増加による交通事故の多発、ひったくりや空き巣被害の増加など、生活環境の悪化が目立つようになってきた。

個人主義的な考え、行動が目立つようになった。

◆ 課題解決に向けた主な活動

青少年を見守り、学校の安全を守る活動を実施
放課後等に学習や読書が自由にできるフリースペースでの世代間の交流

地域福祉をすすめる拠点、高齢者の集う場としての活用



【アワードでの展示風景】

ボランティアの力で広場を毎日開館

地元ボランティアにより、毎日午前10時から午後7時まで開館しています。

ボランティアの確保にあたっては、定期的に募集のチラシを配布し広く人材を募集するとともに、地域団体や大学などにも協力を呼び掛け、継続的な運営を可能にしています。

また、中学校のトライやるウィークで生徒を受け入れたり、幼・小学校などの行事にも協力し、地域づくりに焦点をあてた活動を行っています。

子どもの見守りの場を提供

小学校敷地内という利点が活かされ、放課後等に子どもたちが自然と集まり、学校の安全を見守る場ともなっています。子どもたちは、地域の高齢者と折り紙、けん玉、将棋などを楽しむとともに、ボランティアの指導で、自分たちでルールを守れるようになり、さらに自由に使えることで多くの子どもや親たちが集まり交流が広がっています。



【毎月開催するけん玉教室】

◆ アワードに参加した感想

それぞれの広場でさまざまな活動が行われていることがわかり、面白かった。また、アワードとあわせて2つの行事が催されて、楽しめました。アワードでは、参加者に、「ぽっかぽかひろば」で使用しているけん玉に挑戦してもらうなど、子どもを楽しませるコツを披露しました。

拠 点 施 設	瓦木・深津県民交流広場（ぽっかぽかひろば）〔新築〕 《主な整備内容》 ○拠点施設の新築（フリールーム1室、事務スペース1室（2F）、流し台、備品収納庫等）（木造2階建て76㎡） ○備品整備（机、いす、パソコン、コピー機等）	
---------	--	--

連絡先 : 瓦木・深津県民交流広場 TEL / FAX 0798-20-5608

● 拠点を活用した活動のポイント

平成16年度に、手探りでスタート。17年度から月2回「ほんわかカフェ」を開店、地域住民の交流の場として多くの方の来店がありました。朗読・折り紙・歌声喫茶等のミニイベントも企画。それを機に、歌声喫茶や健康体操倶楽部等が独立し、活動の広がりを見せています。「ほんわかカフェ」はその役目を終え閉店したが、倶楽部等は活動規模を拡大し、地域コミュニティの交流を深めています。

◆ 地域コミュニティの現状と課題

自治会、子ども会、老人会等の活動は比較的盛んである。

少子高齢化が進み、地域の担い手としての幅広い人材の育成や、リーダーの円滑な世代交代を図るため、新しい世代の参加と促進することが課題である。

◆ 課題解決に向けた主な活動

併設の図書館分室を利用し、本の読み聞かせや学習講座の開催等

社会福祉協議会等と連携した高齢者ふれあい事業等の福祉活動の実施

コミュニティスクールと協働したふれあいまつりなど異世代交流事業の開催

ほんわかカフェ「おおはら」の効果

地区住民が気軽に集まり、「ほんわか」とした雰囲気の中で、学習・交流する機会として、毎月2回「ほんわかカフェ」を16年度から5年間実施。ミニイベントで好評だった活動から倶楽部に発展し、活動の広がりなどの成果がありました。当初の活動では、地元のアナウンサーや元幼稚園の先生、喫茶店経営者、編み物研究者等がボランティアで運営を支え、民謡教室、カラーコーディネート教室、絵手紙教室など多彩なイベントを開催し、施設を拠点として、地域の人々の交流の輪がひろがりました。



【アワードでの展示風景】

個別の活動が倶楽部に発展

ほんわかカフェ「おおはら」は、地域の新たな活動の呼び起こしや活動の広がりを持たせるなどの成果をだし、その役割を終えています。

現在は、健康体操倶楽部、歌声喫茶、着物倶楽部などの個別の倶楽部が独立し、また、年1回のフェスタなど継続的な活動が行われています。



【アワードでの展示風景】

◆ アワードに参加した感想

県内で行われている県民交流広場事業の活動内容が多岐にわたっているのが良くわかりました。他地域と交流している市内の広場があるのを知り、活動の広がり（情報交換や交流の必要性）を実感しました。

拠 点 施 設	市立大原地区集会所〔改修〕 《主な整備内容》 ○和室2室の洋室化 ○洋室化に伴う事務室移転、湯沸場の改修 ○備品整備（パソコン、コピー機、机、椅子等）	
---------	---	--

連絡先 : 大原地区集会所地区協議会 TEL / FAX 0797-38-7782

● 拠点を活用した活動のポイント

高齢化や核家族化が進行する中で、高齢者や障害者の地域生活を支える仕組みづくりに地域一丸となって取り組んでいます。県民交流広場で整備した「稲小地区助けあいセンター」は、地域ボランティアの力で運営され、住民の憩いの場であるとともに、高齢者や障害者の要請に応じて日常生活のサポートや電話相談を行うほか、子育て支援などにも力を入れています。

◆ 地域コミュニティの現状と課題

高齢化や核家族化が進行する中で、高齢者や障害者等の地域生活を支える仕組みが必要になっており、気軽に立ち寄れる拠点を新たに整備し、ボランティアによる助け合い事業を拡充していきたい。

◆ 課題解決に向けた主な活動

地域交流スペースにおける高齢者や障害者等が気軽に集える場づくり
 子育て支援事業（おもちゃライブラリー等）
 助けあいセンターボランティア事業



【アワードでパネルにより活動内容を説明】

稲小地区助けあいセンターの運営

ちょっとしたお困りごとを地域のボランティアがお手伝いするボランティアの仕組みを導入しています。ボランティアがセンターに常駐し、いつでも相談を受け付け、登録ボランティアの中から引き受け手を調整し派遣しています。

ボランティアスタッフに対する支援にも力を入れており、スキルアップを図るとともに、一堂に顔を合わせられる交流の場として「ボランティア研修」を年数回行っています。

ボランティア活動が特別なものにならないように大切にしていることは、無理をしないこと、頑張らないこと、仕事や趣味を犠牲にしないことです。楽しんで活動することをモットーに取り組んでいます。

また、センター1階の交流スペースは地域の方々に無料開放しており、高齢者や障害者とボランティアとのふれあいサロンのほか、「まちの子育て広場」などにも利用されており、子どもから高齢者まで自然にかかわり合える場となっています。



【親子ふれあい交流事業】

◆ アワードに参加した感想

活動している仲間が一堂に集まれば素晴らしいイベントになる事を体験できました。展示内容も、仲間の自信に満ちた報告もすばらしく、大変勉強になりました。

<p>拠点施設</p>	<p>稲小地区助けあいセンター〔新築〕 《主な整備内容》 ○拠点施設の新築（木造瓦葺 2階建て） ○活動に要する備品類の充実整備（机、椅子、FAX、電話機、AED等）</p>	
-------------	--	--

連絡先 : 稲野小学校地区社会福祉協議会 TEL 072-770-8611 FAX 072-770-8641

● 拠点を活用した活動のポイント

自然環境に恵まれる一方高低差が 100m に及ぶ起伏の激しい地形のため、小学校を中心に自治会館も利用しながら、高齢者でも活動に参加しやすいよう工夫しています。HPやブログを活用した情報共有の仕組みづくりにより住民の関心が高まり、ふれあい喫茶やミニシネマ、わがまちの宝である「裏山」を活用した四季折々の緑と花がある散策路づくりなど、多種多様な活動をしています。

◆ 地域コミュニティの現状と課題

昭和 40 年代以降に開発されたニュータウン。市内で最も高齢化が進む地域で、高低差が激しい地形のため、コミュニティ拠点を逆瀬台小学校に置きつつ、地域内の自治会館等も利用しながら活動しています。住民の合意形成を図り、自治会を中核とした組織として、各種団体と連携しながら地域自治を担える組織づくりをめざします。

◆ 課題解決に向けた主な活動

- 児童見守り防犯、高齢者見守り福祉活動、高齢者の生涯学習
- 読み終えた書籍・雑誌の持ち寄りによるミニ図書館
- 「ゆずり葉森の広場」散策路の整備活動



【アワードでパネルにより活動内容を説明】

「ゆずり葉森の広場」散策路整備活動の展開

「豊かな自然・美しいまちなみの中で健康で安心して暮らせるまち」をテーマとして、わがまちの宝「裏山」を活用し、住民による四季折々の緑と花がある散策路づくりをしています。植樹や歩きやすいように整備することはもちろん、美化看板の設置やゴミ対策など地域住民による自主的な維持管理に努めています。

また、高齢者が無理をせず、家族揃って気軽に楽しめる健康ハイキングや自然観察会など、散策路を活用したイベントも数多く企画

し、地域住民の健康づくりや交流にも役立っています。

こうした活動を地域住民に浸透、周知させるために、カラー印刷の広報紙を年4回全戸配布するほか、インターネットを活用し、ホームページやブログを立ち上げ、双方向の情報・意見交換ができる仕組みづくりにも取り組んでいます。ブログは毎日 500~1000 件のアクセスがあり、コミュニティ情報の受発信に大きな成果をあげています。



【散策路の整備】

◆ アワードに参加した感想

スタンプラリーは、情報交換ができ、他地域の活動状況を肌で感じ、今後の活動目標になりました。アワードの成果を地域住民で情報共有し、今後の広場の活性化に連動させることが大事と考えます。

拠 点 施 設	ゆずり葉コミュニティルーム、光ガ丘自治会館、青葉台・逆瀬台自治会館〔改修〕 《主な整備内容》 ○コミュニティルーム室内改修 ○自治会館室内改修等 ○備品整備（パソコン、エアコン、オーディオ等）	
---------	--	--

連絡先 : 逆瀬台小学校区まちづくり協議会「ゆずり葉コミュニティ」 TEL / FAX 0797-73-8839

● 拠点を活用した活動のポイント

わいわい広場「喫茶くすのき」にコーヒーの香りが立つと、いままでの話し声が少し小さくなる。「出不精のわたしがうっかりと“見事な菊ね”と、おとなりさんに誘われて・・・」やがて「ボランティアで流した汗は心地良し！またこのあともな！・・・」と、スクールガードおじさんたちのほっとタイム。この場から時には『地域』の夢を語り、子どもたちへの思いがつつられ、明日へ続く。

◆ 地域コミュニティの現状と課題

従来防犯活動が積極的に行われており、スクールガードなどは、近隣地域では先駆的に取り組み、市安心安全(青パト)車の巡回パトロールには、PTA・子ども会も参加するなど協力を得ています。

◆ 課題解決に向けた主な活動

地域ぐるみパトロール活動等の地域防犯活動
井戸端会議事業(ふれあい広場等の開催)「ふれあい喫茶」の実施
これらの活動を円滑に運営・とりまとめするための地域事務局の設立などにより情報の公開・共有をより推進する。



【日食観望会(平成21年7月22日)】

スクールガード活動(ふれあい喫茶)から地域づくりを!

- ①スクールガード花壇づくり(H20年度より実施)
季節のいろどりで出迎え～ほっとなおもてなし(交流)～
また来たくなる環境づくり。
- ②喫茶の1杯(100円のうち5円)が子どもたちのエコ活動とコラボして学校/地域のシンボル「くすのき」(校庭:樹齢110年～)養生治療(基金)に協賛
- ③気持ちはいつも新鮮!!(旬の話題に挑戦:出前講座開催)
7月「日食観望会」で親子100名超～が参加(見えた!?)
協力:明石市立天文科学館
8月「裁判員(制度)」になれるかな 協力:神戸簡易裁判所

わいわい広場「喫茶くすのき」が交流の場

わいわい広場「喫茶くすのき」は、水・金の週2回、活動しています。活動当初は、数名のボランティアで運営をしていましたが、口コミや誘い合いにより12～3名のボランティアグループに成長し、当番制で活動を継続させています。

喫茶スペースは、PTAの会議や趣味の会の講習の場ともなり、喫茶の運営と活動拠点の提供を両立させています。また、スクールガードの方の活動の情報交換の場、地域づくりを話し合う場としても利用されています。



市花壇コンクール出品(県議会議長賞を受賞)

◆ アワードに参加した感想

従来の自治会(町内会)活動だけではカバーできない行政の仕組みや地域のニーズの多様性から、その地域にあった「まち」が求められてきた。アワードという機会については、県下の各広場を見ることには意義があるが、総花的万博的な催しでなく、テーマの設定や、時限制度の今後をどう進めるかなどの方向性をお互いが考える、行動する時になっているのではないかと。

拠 点 施 設	市立魚住小学校コミュニティ・センター〔増築〕 《主な整備内容》 ○事務室増築、会議室の拡大 ○スロープの設置、車椅子用トイレの設置 ○備品整備	
---------	---	--

連絡先 : 住みよい住みたい魚住まちづくり協議会 TEL 078-947-5154 FAX 078-947-5154

● 拠点を活用した活動のポイント

少子高齢化が顕著で既存集落と団地が混在する地域において、相互の交流機会の創造と提供をテーマに活動しています。定例行事、毎月メニューを変えた体験教室、パソコン教室、世代間や利用者交流イベント、学校行事への積極的参加と児童の広場利用の促進など学校を地域活性化の拠点として活用し、利用者は平均1300人/月以上で、全町に及んでいます。

◆ 地域コミュニティの現状と課題

稲美町の南端に位置する地域で、文化的なコミュニティ施設がなかったことから、地域住民の交流の場の整備が長く望まれていました。

高齢者から児童まで世代にとらわれない交流を通じて、安全で活気のある地域づくりが求められています。

◆ 課題解決に向けた主な活動

手芸・パンフラワー・童謡唱歌・囲碁交流会などの手づくり教室や、住民のニーズによるパソコン教室の開催

子供から高齢者まで参加するなんなん祭、七夕会等のイベントの開催



【空き教室での各種体験教室】

空き教室で多様な活動を活発に展開

児童数の激減により余裕の出来た小学校の空き教室を活用して広場を開設。熱意あるリーダーを中心に、「童謡唱歌」「手芸」「囲碁」「パンフラワー」「マジック」等の各教室や各種体験教室、住民交流のための「語らい喫茶コーナー」（週4日）の開設等、多彩な活動を活発に展開。新旧住民や限定された地域住民の枠を乗り越えた幅広い交流が高齢化社会における活性化につながっています。また、広場の中で児童と高齢者がふれあうことから、挨拶運動も自然に活発化し、児童の安全や健全育成への意識も高まっています。

親しみやすい広場づくりに向けて

高齢者にとって学校は聖域という意識を払拭し、親しみやすい雰囲気づくりに努め、今では“なんなん広場”の愛称で広く住民に親しまれています。行事に参加しない人でも気軽に立寄れる語らい喫茶コーナーは薫り高いコーヒーが自慢で、ファンも多い。毎月メニューの異なる体験教室は待ち望む住民にとってわくわくする期待感も生んでいる。なんなん広場の最大のイベント“まちづくりなんなん祭”は広場に集う方々の発表の場として、地域住民の楽しい文化祭として、地域に根つき始めています。



【まちづくりなんなん祭り】

◆ アワードに参加した感想

ひろば事業のトップバッターとしてこれまで取り組んできた活動を振りかえりながら改めてその意義を強く意識し、他地域の活動を身近にすることで、活動の幅を広げるアイデアを吸収する良い機会を与えられたと思います。催し全体の内容はもう少しコンパクトで効率の良いものを望みます。

<p>拠点施設</p>	<p>町立天満南小学校(余裕教室)〔改修〕 《主な整備内容》 ○備品整備（パソコン、エアコン、大正琴等） ○施設の充実（空調設備、倉庫、机、椅子、書棚等）</p>	
-------------	---	--

連絡先 : 天満南県民交流広場推進協議会 TEL / FAX 079-492-7690

● 拠点を活用した活動のポイント

平成16年度に小野地区地域づくり協議会が発足し、地域コミュニティを活性化するため、小野陣屋まつり、ミニコンサートなどを開催しています。平成19年には「コミュニティレストラン陣屋」がオープンし、食を通じて地域住民との交流を拡大し、地産地消に取り組んでいます。コミレスを中心に自主的・創造的な地域づくり活動を推進しています。

◆ 地域コミュニティの現状と課題

平成17年度に小野市中央公民館が「コミセンおの」に生まれかわり、地域コミュニティ活動の拠点となりました。住民への浸透をさらに進め、住民間の相互交流や連帯意識の醸成が課題となっています。

◆ 課題解決に向けた主な活動

- コミュニティレストランの運営による、食を通じた地域住民の交流拡大
- 地産地消の推進
- 地域住民による地域活性化のイベント開催など楽しいコミュニティづくりの推進

◆ コミュニティ・レストランの運営



【コミュニティレストランの運営】

地産地消を推進し、食を通して新旧住民及び世代間の交流を拡大していくため、地区の活動拠点であるコミセン内に「コミュニティレストラン」を整備しました。レストラン運営に携わる人材は地区内から公募し、食材は、地元農家の米、野菜、卵など使用しています。また、コーヒーカップ、茶碗、皿等の食器は、コミセンの活動サークルが作製したものを利用し、店内の展示・装飾も地域住民が行うなど、手作りの運営を行っています。健康に配慮したメニューやスタッフの心こもったおもてなしに訪れる人も増えつつあり、利用者の喜びの声を励みに、コミュニティ・ビジネスの展開に力を注いでいます。

◆ コミュニティ・レストランでライブなどのイベントを開催

地域住民による地域活性化のイベント開催にも力を注いでいます。その一環として、コミュニティレストランのPRと地域コミュニティの憩いの場となるよう、21年度から「陣屋音自由人(じんやみゆうじん)」ライブを開催している。これは、歌やギター演奏など、月1回程度開催しティータイムのひとつときに音楽演奏を実施し、お客様に楽しんでいただいています。

また、夏場にはビアガーデンを実施するなど、コミレスを核としたコミュニティづくりを推進しています。



【コミュニティ・レストランでライブ】

◆ アワードに参加した感想

各ブースの展示内容を評価して各表彰を行うのは、素晴らしいと思ったが、逆に、各展示ブースの活動はどれも素晴らしく、その内容を各部門ごとに上位3位まで差をつけて評価するのは難しい。

拠 点 施 設	市立コミュニティセンターおの〔改修〕 《主な整備内容》 ○コミュニティセンターをレストランに改修 ○備品整備(厨房備品、パソコン、ロッカー、机、椅子等)	
---------	---	--

連絡先 : 小野地区地域づくり協議会 TEL 0794-63-1020 FAX 0794-63-1138

● 拠点を活用した活動のポイント

比延地区の「瓢箪の里比也野(ひやの)」のまちづくり協議会は、①地域の生産物販売と常設美術展を併設した「喫茶へそでちゃ」の運営、②地域美化推進のため、公園や駅、道路周辺への花の植栽、③地域住民の世代間交流を目的とした「比也野よってけライブ」の企画(年4回)、④比延地区8自治会、学校、幼稚園、各種団体活動の情報を発信、以上の活動を中心に比也野(比延地区)が元気になるための様々な仕掛けを考えています。

◆ 地域コミュニティの現状と課題

防犯、河川美化、地場産品の普及など活発な活動が展開され、タウンウォッチング、フリーマーケットなど独創的な取組も行われています。今後は、各自治会や団体・グループが一体となった取組が求められています。

◆ 課題解決に向けた主な活動

「地域ふれあいサロン」による世代間・新旧住民間交流活動の推進
 地域ぐるみのパトロール活動など、地域防犯活動の実施
 地場産品・地域ブランドづくり、地産地消の推進



【喫茶へそでちゃ】

【比延地区】

喫茶部ではコーヒーにつけるスイーツに、ひょうたんの里をアピールするヒョウタン型のクッキーを製作。高齢者のニーズに corres ponding するため、低価格で身体に優しい献立を水曜日の定食として提供。物販部では地場産野菜のほか、こみせん調理室で作ったクッキー、惣菜の販売。国際交流事業の一環として、中国からの技術研修生と、異文化の交流を月1回開催。その他、地域美化活動、コンサートや演芸会を開催して、地域住民の交流と憩いの場を提供しています。また、へそでちゃ喫茶部の常設美術展は地域に定着しています。

【西脇】

コミセン広場の花植えを季節ごとに、ふれあい交流館では、ほぼ毎日開館し、囲碁、将棋、加竹などで交流を深めています。

【津万】

月1度の里山整備、秋のウォークラリー、周辺地域の美化作業(ゴミ拾い)、「道の駅」横で50匹の鯉のぼりを揚げる活動を行っています。



【アワードでの展示風景】

◆ アワードに参加した感想

あまり時間はありませんでしたが、同じような活動をしている地区の方と少し話をし、ボランティアの不足やふれあい交流の場に人を呼び込む工夫などを聞かせて頂く事が出来ました。

拠 点 施 設	○市立大野隣保館、ふれあい交流館(民有)等〔改修〕 《主な整備内容》 ○JA支店跡を住民交流活動の拠点に改修 ○民有倉庫を「ふれあい交流館」に改修 ○備品整備(机、椅子、パソコン、調理器具等)	
---------	--	--

連絡先 : 西脇市コミュニティセンター比延地区会館 TEL 0795-24-0120 FAX 0795-27-7040

● 拠点を活用した活動のポイント

当地区では、「子供が主役の安全な地域づくり」を目指し、地域内でのフォーラム、ワークショップ、アンケートなどを通じて地域課題や地域住民の意向を把握し、そのニーズに応じた子育て支援や多世代間の交流事業を行っています。また、事業参加者には実費負担を求め、それを基に青山基金を設置するなど、地域住民全員で県民交流広場事業を支えるための土壌を築いていきたいと考えています。

◆ 地域コミュニティの現状と課題

昭和40年代後半から人口が急増、昭和59年に、白鳥小から分離独立して青山小が誕生しました。新旧住民の比率は9：1で、地域全体の融合が大きな課題になっています。

◆ 課題解決に向けた主な活動

親子サミットや親子食育教室、親子史跡探検隊、親子わくわく自然体験塾など世代を越えた地域「子育て支援広場」の開設
各種団体間の情報交換及び交流を図る定例的な「青山ホット会議」の開催
各団体の情報を集約した「県民交流広場新聞」の発行やホームページ開設による住民への情報提供



【アワードでの展示風景】

「ふれあい喫茶」の運営

コーヒーに卵とパンがついて100円の「ふれあい喫茶」を広場開設当時から運営しています。喫茶では、ピアノやバイオリンの演奏などが行われ、高齢者が気軽に訪れることができるよう、血圧測定コーナーを設けたり、福祉相談も実施するなど、人々が集まりやすい工夫をしています。

また、舞台を利用して、地域の人材発表を行うなど、地域の方々の生きがいつくりにつながっています。

「親子なかよし広場」で交流

子育て支援事業として、月に1回「親子なかよし広場」を開催しています。幼児や低学年を中心とした親子が集まり、「鯉のぼりづくり」「七夕祭 笹飾りづくり」「水遊び」などの様々な行事を行っています。

また、「トライやる・ウィーク」として中学生を受け入れ、中学生による読み聞かせにより、子供とお母さんを絵本の世界に引き込んだり、デンデン太鼓を教えたりと、広がりをもった活動ともなっています。



【親子なかよし広場】

◆ アワードに参加した感想

参加されている人々の生き生きとした顔と地域を愛する気持ちの高さに圧倒されました。他団体の展示物を拝見し、大いに展示方法とか活動に対して刺激になりました。

拠点施設	青山中央集会所（地域有）〔改修〕 《主な整備内容》 ○3階ホールを木の温もりのあるスペースに改修し、 2階に情報発信室等の多目的会議室を設置 ○備品整備（机・椅子、パソコン、プリンタ等）	
------	---	--

連絡先 : 安全で安心な活力ある街・青山まちづくり協議会 TEL / FAX 079-266-1081

● 拠点を活用した活動のポイント

当地区は姫路市の旧夢前町内にあり、一人暮らしや夫婦二人だけの高齢者の家庭が年々ふえています。そのため、生活の中での活動が少なくなっており、健康と交流をキーワードに、ふれあい喫茶、映画鑑賞会、課題に即した講演会などを開催しています。手探りで始めた活動ですが、地域の方々に喜んでいただいております、それを励みにお世話をするメンバーも楽しくやっています。

◆ 地域コミュニティの現状と課題

一人暮らしの高齢者や夫婦二人暮らしの世帯が年々増加しています。

日々の生活に変化が少なく、活動が乏しくなりがちなため、健康に留意し、世代間の交流の機会を広げていくことが課題です。

◆ 課題解決に向けた主な活動

地域ふれあい喫茶など世代間・新旧住民間の交流のためのふれあい事業

住民による作品展の実施

ふれあいセミナーの開催



【アワードでの展示風景】

「ふれあい喫茶」の開催

地域の女性グループが中心となり県民交流広場に応募。具体的な活動として、月に1回ふれあい喫茶を開催しています。

リーダーを核として、活動メンバーは、コーヒー担当、モーニング担当、お花担当、和食担当などのそれぞれの得意分野を任されており、また、互いに協力しながら喫茶の運営にあたっています。

利用料 150 円/人とし、毎回 100 人も参加があります。メンバーが赤いエプロンを着用するなど、明るい雰囲気づくりに努めています。

各種講座等の開催

「ふれあい喫茶」と合わせて各種講座として、食育についてのスライド形式の健康講座や消防署の職員を招いた防災勉強会などを実施しています。今後、子供を対象とした行事を小学校と連携しながら検討していくことも考えています。

これら行事の実施にあたっては、中長期的な活動を視野に、次世代リーダー養成を図る見地から、若年層との協働に配慮するように努めています。



【アワードでの展示風景】

◆ アワードに参加した感想

アワードへの参加が、ボランティア全員の結束力の確認につながりました。隣接コーナーの人々と仲良くなり新しい発見も出来ました。今後は、訪問したり、招待して、学習を広めていきたいです。

拠 点 施 設	戸倉公民館〔改修〕 《主な整備内容》 ○電気配線回路の増設、ブラインドの設置 ○備品整備(ふれあい喫茶のための、テーブル、椅子、調理器具等)	
---------	---	--

連絡先 : 蒔野ひだまり広場 TEL / FAX 079-336-1939

● 拠点を活用した活動のポイント

活動拠点の整備により「ふれあいと元気なまちづくり」をめざして、健康づくりを中心とした1人1クラブ参加を目標に12クラブが定期的な活動を展開しています。また、町をあげてのイベントは春はクリーン作戦と消火訓練、夏は盆踊り大会、秋は秋祭りりと里山散策会、冬はとんどと、成果は上々です。

◆ 地域コミュニティの現状と課題

活動拠点である町立ミニ武道場は、昭和60年に青少年の健全育成のために建設されたもので、少子化とともに利用者が少なくなっていました。ここを地域住民のコミュニケーションの場として活用していきます。

◆ 課題解決に向けた主な活動

営農組合や環境保全グループと連携した自然観察会等の実施
 グラウンド、ウォーキングコース等を活かした健康づくり活動の実施
 各団体グループ活動の作品展示や競技会による交流
 リサイクルなど環境汚染防止活動



【アワードでの展示風景】

地域コミュニティづくりの実践

5年間事業を実施した結果、地域コミュニティづくりのコツは、住民が出会う機会をより多く、意図的に設定することにあることがわかりました。そのポイントを挙げると、①顔と顔を合わすこと、②言葉かけ(あいさつ、心地よい言葉の交換)、③受容する場づくり、④飲食を共に、⑤楽しい話題、⑥再会約束。こんな地域社会への場づくりのための奉仕活動やイベントをマニュアル化、組織化して、今後の活動継続への手段としていきたいです。

《イベント成功のポイント》おしえます!!

イベントの成功のためには6つのポイントがあると考えています。それは、①企画・内容(満足性+感性)、②期間(2~3カ月で実施)、③経費(最小の経費で最大の効果)、④運営(PRと人集め)、⑤スタッフ(服装(腕章・リボン等))、⑥効果と評価(アンケート、反省会)です。

また、イベントは集客があってこそですが、その集客のためのポイントは、①フレームは同じパターンを続ける、②地域の定番を作る、③地域の人々の関心を示す内容、④自分が発揮できる場に、⑤啓発・PR活動、です。これらのポイントを押さえながら今後も活動を継続していきたいと考えています。



【アワードでの展示風景】

◆ アワードに参加した感想

地域コミュニティのポイントやイベントのポイント等の展示に対して、多くの方が興味を示して下さい、参考要望が多かった。当地域も他のブースとの交流を図ることができ、参考になりました。

<p>拠点施設</p>	<p>上笹一区自治会館〔改修〕 《主な整備内容》 ○多目的室、サロン室、研修室等の新設 ○備品整備(健康づくり器具、スポーツ用具等)</p>	
-------------	---	--

連絡先 : 香島地域交流協会

● 拠点を活用した活動のポイント

伝統芸能チャンチャコ踊りを伝承する千種東小学校は小規模で少人数です。しかし、県民交流広場事業で、ふるさと鷹巣の未来を背負って立つ東っ子、鷹巣の宝とも言うべきこの子供の健全育成を願って、地域住民総掛かりでかかわって行く取組こそが、魅力と活力に満ちたふるさとづくりに繋がっていくと考えています。

◆ 地域コミュニティの現状と課題

過疎化が進む中で、地域と学校が連携した地域づくりに取り組んでいます。

自治会と子ども会が中心となって伝統芸能の伝承やよさこい踊り等の活動を行っていますが、リーダーの後継者育成が課題であり、多世代参加型事業の実施等を通じて人材の発掘を進めたい。

◆ 課題解決に向けた主な活動

- 青少年の健全育成と伝統芸能の継承等のためのチャンチャコ踊り事業の実施
- 10代から祖父母世代までの交流のためのスポーツ教室の開催
- インターネットによる各家庭や他地域との交流のためのパソコンクラブの開催



【アワードでの展示風景】

毎月1回の集いの場を提供

自治会長等を責任者とした30人の委員会を設置し、月1回住民みんなが集える行事を検討しています。

より多くの異世代間交流を図っていくため、「ふれあい映画会」「地域づくり学習」などの室内行事や、「地域ぐるみ運動会」「秋祭」「とんど」などの屋外を活用した大がかりな行事を、バランスよく企画、実施しています。

運営費を確保していく取組も検討中

継続的な事業としては、毎月第3土曜日は、「健康体操、ふれあい喫茶」を、毎週土曜日に、「パソコン教室」を実施しています。

これらの事業を今後も引き続き実施していけるように、パソコン教室受講料、コピー・プリンターの使用料、自治会費を徴収していくことを検討し、運営費の確保を目指しています。



【アワードでの展示風景】

◆ アワードに参加した感想

私たちのブースを訪れてくれる人と会話ができて、情報交換や交流がある程度図られたのは幸いでした。西宮では週3回ふれあい喫茶をするなど、都会と田舎では感覚の違いが大きすぎるのに、感心しました。

<p>拠点施設</p>	<p>市立鷹巣林業者集会センター〔増築、改修〕 《主な整備内容》 ○ITルーム、倉庫スペースの増築 ○調理室の拡張改修 ○活動に要する備品類の充実整備（パソコン、机、椅子、ホワイトボード等）</p>	
-------------	---	--

連絡先 : 鷹巣地域住民交流クラブ推進委員会

● 拠点を活用した活動のポイント

1500人の地域住民が「皆、家族！仲間！」という気持ちで、困っていることがあればお互いに助け合いながら地域づくりを進めています。小学校児童を対象にした学童保育や、月に2回開催するふれあいサロンなど、地域内の子どもから高齢者までが一緒になり、様々な活動を通して交流を深めています。19年設立の地域自治協議会は、活動分野ごとに事業部会を置き、住民誰もが地域づくりに参加できる組織として、県内外から注目されています。

◆ 地域コミュニティの現状と課題

高齢化率が35%に及び、地域自治活動や農業の後継者問題が深刻になっています。個々の地域団体は活発な活動を展開しているが、団体相互の情報交流・人的交流促進も必要で、今後の課題の課題です。

◆ 課題解決に向けた主な活動

ホームページ開設等による情報の共有・発信
地域の自然や温泉など地域資源を活かし、都市との交流や地産地消などの地域づくり活動
伝統文化の伝承や自然の遊びを通じた子供を地域で育む活動

「ちびっ子集まれ!」地域学童保育を実施 — はぐくみの郷部会 —

はぐくみの郷部会では、地域みんなで、子どもを見守り、育てていく子育て支援の活動や、伝統文化・郷土歴史の継承などを通して地域の誇りを育てていく活動を行っています。

具体には、地域学童保育活動として、「ちびっ子集まれ!」と題し、地域の方が講師となり座禅・茶道体験、盆踊り体験、凧づくりなどを行いました。また、小学生を対象に、夏休みを利用して地域内各種団体の協力により2泊3日のキャンプを実施し、与布土地域の自然を満喫しながら地域住民との交流を深める活動を実施しました。



【アワードでの展示風景】

「ふれあいサロン」で各種講座や教室を開催 — すみやすい郷部会 —

すみやすい郷部会では、子供から高齢者まで誰もが安全な環境で安心して生活できるよう、地域ができる取組について研究・実践活動を行っています。


具体には、各種講座・教室などを開催し、学ぶ機会の提供とあわせ、地域の子どもから高齢者までが気軽に集える「ふれあいサロン」を実施しています。その他、コミュニティバスの運行検討や、災害等に備えた避難訓練、心配蘇生法・AED講習会などを実施しました。



【アワードでの展示風景】

◆ アワードに参加した感想

どの地域も、課題を持ちながら、活発に活動されているのを感じました。また、地域の皆さんの協力を得ている地域程、参加者が多いと感じました。

拠 点 施 設	○市立与布土地区コミュニティセンター 等〔改修〕 《主な整備内容》 ○気軽に立ち寄れる交流サロンを設置 ○パソコン講座や情報発信のためのLAN設置 ○備品整備(机、パソコン、プロジェクタ等)	
---------	---	---

連絡先 : 与布土地域自治協議会 TEL / FAX 079-676-3030

● 拠点を活用した活動のポイント

平成18年度に県民交流広場事業で、食品加工施設「おふくろ工房」を整備して、主婦14名で「若あゆグループ」を立ち上げ、旬の野菜など地元農産物をふんだんに使いながら、地産、地消、食育の推進を目指し「おふくろ弁当」を作って販売しています。また、特産品づくりとして、ジャムや佃煮などの食品加工も行っており、製品は、県のブランド商品に認定されています。

◆ 地域コミュニティの現状と課題

かつては連帯感のあるコミュニティが形成されていましたが、過疎化、高齢化が進み、地域意識が薄れつつあります。

地域の老若男女を挙げて、地域文化の継承に取り組んでいます。

◆ 課題解決に向けた主な活動

子育て支援、高齢者語らいの場所としてのたまり場の設置

郷土料理研究、朝市など有機農業を生かした活動による地域活性化

伝統芸能保存、趣味の会、スポーツ交流等

「おふくろ弁当」の調理・配達

地域内での配食サービスを持続的に行っていくよう、調理室は必要最小限度のスペースに留めるなど、施設の維持管理が容易となる計画としました。

主婦のボランティア「若あゆグループ」が、4班に分かれて毎日交代で「おふくろ弁当」を調理し、販売（配達）しています。メンバーそれぞれの人材育成を目指し、班ごとに責任者を決め、班の中で活動を完結させ、自立した活動が行われるよう工夫をしています。

今後、この活動を軌道に乗せ、次の世代に引き継いでいけるよう事業に取り組んでいます。



【アワードでの展示風景】

「りんごジャム」や「梨ジャム」などの特産品づくりの実施

「おふくろ弁当」と合わせて、「りんごジャム」「梨ジャム」などの瓶詰め加工の特産品づくりを実施し、町内だけでなく、町外でも販売してきました。材料の調達にあたっては、町内の高齢者が栽培・収穫する地元農産物を有効に活用していて、高齢者の生きがいづくりにも結びつけながら特産品づくりを行っています。

これら加工品について、町内外からニーズがありますが、高齢化が進み、生産加工の能力にも限界があるため、町内での販売を念頭に活動体制を見直していく予定にしています。



【アワードでの展示風景】

◆ アワードに参加した感想

今回の参加で、交流広場事業に意欲を高める機会となりました。思いがけない賞をいただき、今後の大きな励みになりました。

拠 点 施 設	町立八田コミュニティセンター〔改修〕 《主な整備内容》 ○食品加工場の整備 ○備品整備（パソコン、コピー機、大型冷蔵庫等）	
---------	--	--

連絡先 : 八田文化交流会 TEL / FAX 0796-93-0888 (会長・清水利明)

● 拠点を活用した活動のポイント

寛政年間に開設された石門心学の学問所「中立舎(ちゅうりゅうしゃ)」跡を、地域のシンボリックな拠点として甦えらせ、「学びの里」として栄えてきた歴史的・地域的特性を生かし、地域づくり、新たな文化創造の礎となるよう県民交流広場事業を活用して改修しました。講座による地域文化の伝承や高齢者を中心に「いきいき交流サロン」による世代間の交流活動を行っています。

◆ 地域コミュニティの現状と課題

農業を主な産業としてきた自然豊かな地域ですが、高齢化と少子化が進み、将来を担う後継者が不足しています。

これまで積み重ねてきた活動を継承しつつ、地域との関わりが希薄な若者に地域事業への参加を呼びかけ、人づくり、街づくりを進めています。

◆ 課題解決に向けた主な活動

「平成丹波こころ学」などの地域講座による地域文化の伝承やふるさと意識の醸成、世代間の交流活動、防災・防犯を実践する地域見守り活動
健康づくりやふれあいサロンなど高齢者の介護支援活動、子育てほっとステーションの開設による子育て支援活動



【いきいき交流サロン】

「いきいき交流サロン」の開催

地区内の一人暮らしの高齢者を招いて、年間約6回、午前10時から午後3時頃まで「中立舎」で、「いきいき交流サロン」を開催しています。

新年交流のつどい、かるた取り大会、寒い時の健康法、こたつで座談会等、季節に応じた多彩な活動が参加者に喜ばれています。

介護サポーター養成講座の修了生がスタッフとしてサポートし、時には参加者が手芸や料理を指導するなど、まさに“いきいき”と交流を深めています。

「中立舎」で通学合宿を実施

日置小PTAを中心とした「ふるさと交流部会」が、「中立舎」を拠点として、2泊3日の通学合宿を実施しています。

小学校4年生～6年生約30人が参加し、中立舎から登下校します。夜は「こころ学講座」や「ふるさと講座」で学習したり、昔遊びを地域の高齢者から教えてもらいます。また、食事作りや、近所で「もらい風呂」を体験することにより、地域の方と交流を深めます。合宿中は異年齢の班別行動により、掃除や片づけなど当たり前のことを、ルールを守りながら行い、人を思いやる心を養います。



【通学合宿】

◆ アワードに参加した感想

地域特性を生かした様々な取り組みが紹介されたことにより、相互に競い合い、連携し合って更に活発な地域づくりが展開できると感じました。この町が好きになる、みんなの笑顔がすてきな地域を創りたい。

<p>拠点施設</p>	<p>ちゅうりゅうしゃ 中立舎(個人有)〔改修〕※江戸時代の学問所跡 《主な整備内容》 ○江戸時代の石門心学の学問所「中立舎」の内装や設備を改修 ○備品整備(パソコン、印刷機、机、椅子等)</p>	
-------------	--	--

連絡先 : 日置校区まちづくり協議会 TEL 079-556-3111 FAX 079-556-2827

● 拠点を活用した活動のポイント

運行5年で利用4倍！

高齢者の交通手段をどう確保するか。丹波市市島町鴨庄地区で住民が運営する「鴨庄ふれあいバス」が地域の需要をつかみ、運行開始から5年で利用者は約4倍に増えました。行政の財政負担が大きいコミュニティバス（コミバス）に代わる新モデルとしても注目されています。

◆ 地域コミュニティの現状と課題

地域内には公共交通機関がなく、高齢者の移動手段の確保が課題です。

住民自らが地域を守るため、防犯活動や環境整備活動をはじめ、生涯学習、高齢者対策を充実させる必要があります。

◆ 課題解決に向けた主な活動

- 定期的なふれあいバスの運行
- 地域ぐるみの防犯パトロール活動
- 全戸参加による一斉クリーン作戦の実施
- ふれあいサロンでの世代間・新旧住民間の交流事業



【鴨庄ふれあいバス】

「鴨庄ふれあいバス」の運行

ワゴン車を購入して週3回運行しています。市役所、病院、スーパーなどを巡回するので、高齢者の外出がしやすくなりました。

平成21年8月より有償化し、今後もより快適な運行をめざして、財源確保にも力を入れています。

また、丹波市の委嘱を受け、ふれあいバスに青色回転灯をつけて小学校の下校時間帯や夜間のパトロールを実施するなど防犯活動にも活躍しています。

◆ 男女料理教室の開催

男女共同参画社会づくりの一環として、「男女料理教室」を開催しています。“男女の助け合いはまず家庭から”と、お互い忙しい時やしんどい時に一品でも料理が作れたら助かるという思いから取り組んでいます。

男性は地域の女性団体メンバーに手ほどきを受け、簡単でおいしい料理を作って一緒に頂きます。調理台や流し台を整え、バリアフリーにした調理室は使いやすく快適です。

一人暮らしの高齢者のためのメニューも考案し、ふれあいサロンの活動にもつなげています。



【バリアフリーにした調理室】

◆ アワードに参加した感想

会場の多くの団体と特色ある出展につかの間触れることが出来、多人数で参加しておれば、鴨庄地区の人の見聞も広まっていたと思うと少し残念です。

拠 点 施 設	鴨庄コミュニティセンター〔改修〕 《主な整備内容》 ○施設各箇所のバリアフリー化 ○調理室改修 ○備品整備（冷蔵庫、テレビ、車両等）	
---------	--	--

連絡先 : 鴨庄地区自治振興会 TEL / FAX 0795-85-2457

● 拠点を活用した活動のポイント

「光と元気発信 にぎやか大好き」のキャッチフレーズのもと、地域住民の交流イベント「秋の夜の集い」を開催し、ふる里かえり提灯など800余りの提灯を掲出し地域の連帯感を醸成。また、公募によりその年の世相を提灯で描く「赤提灯大文字」も年末年始の風物詩となっています。地域情報紙やイベントカレンダーを全戸配布するなど多彩なアイデアで地域交流・活性化を精力的に進めています。

◆ 地域コミュニティの現状と課題

人情味があり、人と人とのつながりを大切にするまとまりのある地域。

兼業農家の増加、宅地開発による新住民の増加、高齢化等により住民意識も変化しつつあり、地域一体となった地域づくりが求められています。

◆ 課題解決に向けた主な活動

パソコン教室による住民交流やホームページによる情報の発信

住民交流のための「住民ふれあい喫茶」や「秋の夜の集い」「赤提灯大文字」の開催による地域間交流

美しい住環境づくりのための緑花推進講座の開催



小学生の獅子舞（秋の夜の集い）

堺地区の全住民が参加する堺活性化委員会が、そのまま県民交流広場の実施母体として、すべての住民参加を基本に事業を展開。

広場事業は、事業を担当する人材を確保してから事業申請。

事業は、季節ごとに展開し、春の「スケッチ物語事業」（迷路、鯉のぼり、ポップコンサート）や小学生による菜の花の種まき、夏の「天体観測」、秋のお月見や、小学生の獅子舞・だんじり唄、中学生のプラスバンドが参加する「秋の夜の集い」、年末年始には掲示する文字を広く公募する「赤提灯大文字」など、伝統芸能の保存・継承と地域間交流を図るほか、パソコン講座など各種講座を開催。

《堺地区の活動の基本》

- 長く続かないと思えるものはやらない。
- 主な事業に毎年付加価値を付ける。
- 飲食は自分で支払う。
- 労力に負担のかかる事業には手を出さない。



赤提灯大文字



◆ アワードに参加した感想

紙上での活動報告と違って、同じ活動をしている者として、他の広場の方々と意見交換ができて大変よかったです。今後の活動の参考にしていきたいと思います。

拠 点 施 設	堺地区公民館〔改修〕(旧市立老人福祉センター「堺会館」) 《主な整備内容》 ○パソコン等が利用できる情報室の整備 ○「住民ふれあいサロン」を増築 ○手すり設置等のバリアフリー化 ○備品整備	
---------	---	--

連絡先 : 堺活性化委員会 TEL / FAX 0799-35-0323

● 拠点を活用した活動のポイント

「シカ対策から自然環境を考えよう」と題して、神代地区で深刻な問題となっているシカ等の獣類被害対策について取り組んでいます。課題解決に向けた活動の他、「自然との共生」「人と自然がどうかかわってきたのか」を考える「サイエンスカフェくましろ」を神戸大学のサイエンスショップと連携して年間10回程度開催しています。

◆ 地域コミュニティの現状と課題

少子高齢化が進み、地域のコミュニティも徐々に希薄になり、住民の集う機会が少なくなっています。文化交流、学習会、天体観測会等を通じて、青少年の健全育成、郷土愛の醸成をめざします。

◆ 課題解決に向けた主な活動

地域の課題解決や意識向上のため「サイエンスカフェくましろ」を開催
 次世代の健全育成や愛郷心を高めるため郷土の星空観測会の実施
 映画会・落語会・講演会など文化交流会の開催



「シカと人との知恵くらべ」
花火で追い払い大作戦

文化・科学を通して、新たな形の温かいコミュニティづくりと安全で安心の拠点づくりをめざして事業を展開。

地域で困っていることに対して、住民に目を向けてもらうために、神戸大学サイエンスショップと連携して「シカ対策」の講座をはじめとする「サイエンスショップくましろ」を開催した。講座内容は、地域の伝統文化から山岳信仰、相対性理論まで、バラエティに富んだもので、毎回、多くの参加者を得て、住民の地域課題に対する情報の共有、意識の向上につながっています。

- 《基本方針》・地域の課題解決や意識の向上
- ・科学や文化を通しての心の交流
 - ・郷土芸能を生かした地域の活性化

広場に隣接する小学校に30年前に設置した天体観測ドームがあるが、子どもたちの健全育成を願った当時の熱い思いを受け継ぎ、毎月1回の「天体観測会」を開催しています。

地元の「人形浄瑠璃」などの郷土芸能の後継者育成を目的として、「郷土芸能を生かした地域の活性化」等を考える集会や郷土芸能発表会を開催しています。

その他、住民のニーズに基づいて、月2回のパソコン教室、年2回程度の園芸教室、「家庭で見守る認知症」講座をはじめとする健康教室などを開催しています。



日食ができる仕組みを模型を使って熱心に説明(アワード会場にて)

アワードに参加した感想

県下の他の広場の活動を知ることができて参考になったし、たくさんの仲間があることがこれからの活動の支えになります。知事表彰もいただき地域のみなさんもとても喜んでます。ありがとうございます。

拠 点 施 設	市立神代公民館〔改修・増築〕 《主な整備内容》 ○玄関スロープやトイレ洋式化等のバリアフリー化 ○舞台幕や遮光カーテン等の設置 ○備品整備(パソコン、印刷機、天体望遠鏡等)	
---------	--	--

連絡先 : くましろふれあい広場推進委員会 TEL / FAX 0799-42-1437